

広東語話者による二字漢語の誤答の分析
—語頭の清濁音の混同に注目して—

An error analysis in Two-character Sino-Japanese Words
by Cantonese Speaker:
Focusing on Confusion between Voiced sound Voiceless
Initial Consonants

郡司 拓也

嶺南大学 香港大学 香港シティ大学

要旨

本研究は広東語母語話者を調査対象とし、誤答の子音の読みの誤りについて調査分析を行なった。その結果、清濁音の混同が広東語母語話者の子音の主要な誤りであることを確認することができた。

またこのような広東語母語話者による清濁の混同の誤りを減らすために広東語の声調（陰陽調）の知識がどれだけ正の転移として活用できるのかという点について、広東語の声調と日本語の清濁音の一致率を調査、分析をしたところ、今回調査対象とした再生テストの清濁音を混同した誤答の字音の 7 割以上が広東語の陰陽調の区別によって類推することが可能であることも明らかとなった。再生テストで正答だったものを含めると、約 8 割もの字音の清濁音の類推が可能であると判明した。

キーワード:

広東語話者、二字漢語、誤答分析、清濁音の混同、清濁音と声調、言語転移

広東語話者による二字漢語の誤答の分析 — 語頭の清濁音の混同に注目して —

郡司 拓也

嶺南大学 香港大学 香港シティ大学

1. はじめに

漢字の読みにおいて、清音と濁音を混同した誤りは長短音の混同など並び、漢字圏学習者、非漢字圏学習者を問わず、しばしば観察される。

郡司（2018）では広東語母語話者を対象とした二字漢語の促音化、濁音化、半濁音化の誤答分析を通じ、学習者が誤りやすい傾向を把握することで、学習者の母語の漢字の知識を生かした効率的な文字、語彙学習に繋げていくことを目指した。また郡司（2020）では漢字音の母音部分、特に長音を含む漢字の非長音化と非長音を長音化してしまう誤答について分析し、長音の誤答は単純な長短音の混同だけでなく、母語の漢字の発音知識の負の転移と思われる傾向が見られることを明らかにした。

本研究でも同じ方向性で、清濁音に関する学習者の誤答の傾向を分析し、実態を明らかにし、母語の漢字の知識を正の転移として活用することにより、誤りを減らしていく可能性を探っていきたい。

2. 先行研究

漢字の読みに関する誤答分析は濱田・高島（2009）のように中国人学習者を対象としたものや兒島（1998）のように香港の広東語話者を対象とした研究もあるが、いずれも比率は異なるものの、音韻に関する誤答は長短音の誤り、清濁音の誤り、子音の誤り（交替・添加・脱落など）が原因の上位3位であると分析している。これらの研究は字音語、字訓語を特に区別していないものが多く、中国語母語話者の負の転移が考えられる字音語に対象を限定し、漢字圏学習者の母語での漢字の発音と日本語の字音の誤答を比較、対照した研究はまだあまり多くないようである。

ただ、誤答分析に限らなければ、日本語以外の漢字音と日本語の字音との対応関係を分析し、その法則性を漢字圏学習者の日本語の字音の習得に役立てようという研究は薛（2013）や黒澤（2016）など近年、数多く見られるようになってきた。しかしこれらは中古音等の古い中国語の特徴をあまり保持していない北京語（中国語標準語）を対象としているため、日本語の清濁音や長短音を北京語の音韻を調査、分析し、法則性を研究していたが、例外が非常に多いため、日本語形声文字の音符から日本語の清濁音や長短音を区別するといった手法を提案している。

広東語においても大西（1985）のように旧常用漢字表に現れている字音を広東語の漢字音と対照した研究があり、また李（1992）のようにそれらをさらに発展させ、広東語の漢字音と日本語の字音との対応関係の法則性を示したのものもある。これらは対応法則の種類が多いため、演繹的に学習者が活用するにはやや難点はあるものの、広東語の広東語母音（韻母）と日本語母音の対応関係については郡司（2020）でもその有用性は確認できた。

ただ、李（1992）では子音に関する対応法則も提示されているのだが、対応法則として有用な一致率の高いものは「広東語b→日本語h(78.7%)」や「広東語d→日本語t(72.2%)」など清音が大半で、濁音は例外扱いとなっている。例えば、今挙げた例だと、「広東語b→日本語b(21.3%)」や「広東語d→日本語d(20.5%)」のような形である。唯一、「広東語ng→日本語g(89.3%)」だけが濁音に対応する法則として取り上げられているに過ぎない。清音だけであればこの子音の対応法則も有用だと思われるが、濁音に関しては全て例外扱いとなってしまっており、残念ながら子音の対応関係だけでは清濁音の判別は困難であることを証明している。

そこで子音の対応関係以外で有用だと思われるのが広東語の声調（陰陽調）の知識の活用である。

呉音、漢音と呼ばれる主要な日本漢字音は中国語の中古音に基づいているが、広東語の音韻もまた中古音の特徴を多く保全している。中国語は唐代後期に濁音清化が進み、今日、広東語を含め、多くの中国語方言は清濁の区別を失っている。その失われた清濁の区別を声調から類推するという試みがある。

広東語話者による二字漢語の誤答の分析
—語頭の清濁音の混同に注目して—

例えば、数少ない研究例として、丸田（1996）は北京語の声調から日本語漢字音の清濁音の類推を試みており、北京語の字音では日本語の濁音の多くが第二声（陽平）と第四声（去声）に含まれるが、そこにはそれよりも遥かに多くの清音が含まれるため、清濁の判別には利用できないとしている。一方、第一声（陰平）と第三声（上声）にはほとんどが清音で、濁音が少ないため、例えば第三声のゼロ子音は日本語のガ行音に対応し、第一声、第三声のh子音は日本語ではすべて清音になるといった対応関係を紹介し、北京語の声調知識の活用例を紹介しているのだが、やはり北京語の声調知識を利用した日本語の清濁音の区別は非常に限定されるということが明らかとなっている。

しかし、広東語では中古音の清濁の区別が声調の陰陽によって、その多くを保持していることが知られている。基本的に中古音の清音（全清、次清）は広東語では陰声調に、中古音の濁音（全濁、次濁）は広東語では陽声調に対応しているので、中古音の清濁を広東語の声調からある程度推測することが可能だと言われている。広東語の声調から中古音の清濁が類推可能なのであれば、日本漢字音の清濁もそこからある程度推測できるのではないかと考え、子音の誤答の調査、分析をした後に、広東語の声調と日本語の清濁音の一致率についても調査、分析することにした。

3. 研究の目的と方法

本研究は広東語話者による二字漢語の語頭の子音に関する誤答を分析し、まず学習者の誤りの傾向を明らかにすることを目的とする。その上で特に広東語母語話者を含めた中国語母語話者の多くに誤りが多く見られると言われている清濁音の混同に注目し、誤答の見られた日本語の字音の清濁音とそれに対応する広東語の漢字音の陰陽調を対照した上で、広東語の声調知識によって、どの程度日本語の正濁音の類推が可能となり、誤りを減少させることが可能なのかという点を明らかにすることを目的とする。尚、調査の元となる資料は郡司（2018）、郡司（2020）と同様であり、その手順は以下のとおりである。

3.1 調査対象と調査の手順

被験者はマカオ大学で日本語を専攻している中級後期レベルの広東語母語話者の4年生、39名である。クラスには北京語母語話者など

非広東語母語話者の学生もいたが、今回の調査対象からは除外した。被験者には事前に出題される二字漢語の一覧表を配布し、事前学習を促した上で、毎回、授業の最初の 5 分間を使い、二字漢語の文字・語彙の小テストとして実施し、解答データを調査資料として採取した。

3.2 再生テストの内容

小テストとして実施した再生テストの出題語彙は『日本語能力試験出題基準【改訂版】』に掲載されている語彙リストから旧日本語能力試験の 1 級相当の語彙とされているものを抽出し、その中から二字漢語 577 語を調査対象とすることとした。

その 577 語を原則として週 2 回の授業の際に毎回 30 語ずつ出題した。出題方法は問題用紙に書かれている二字漢語を読み、その発音をひらがなで解答するというもので、極少数ながら見られたひらがなの字形の誤りによる誤答は今回の調査対象外とした。

なお本研究では二字漢語の語頭子音のみを調査対象としているため、母音等その他の部分の誤りに関しては扱わない。

4. 分析結果と考察

調査対象とした 577 語の二字漢語であるが、実施後に字訓を含む「無闇（むやみ）」という語が 1 語含まれていることが判明したため、調査対象から除外した。ちなみに誤答はなかった。

今回の調査対象は語頭の子音であり、「ア、イ、ウ、エ、オ」の母音で始まる漢字は対象外とした。また前接字部分のみを扱うので、「頑固」と「頑丈」のように前接字が同字のものは 1 字として整理した。ただし、「大」（「大衆」「大胆」）や「鉄」（「鉄鋼」「鉄棒」）のように複数の字音を持つものや促音化や濁音化、半濁音化しているものはそれぞれ別字扱いとして集計した。

最終的な調整の結果、調査対象とする延べ漢字数は計 408 字、うち前接字子音に誤りを含む漢字が 273 字、含まない漢字が 135 字となった。

4.1 出題字数に対する誤答の割合

4.1.1 子音別の誤答の割合

まず子音別の誤答の割合を見ていく。ここでは清音、濁音を音声的特徴から、「対応する濁音のある清音（無声子音）」、「対応する濁音のない清音（有声子音）」、「濁音（有声子音）」の3つに大別し、それぞれ子音別に割合を比較した。なお、日本漢字音のローマ字表記は清濁の対象がしやすいように日本式を採用した。

表 1. 子音別の誤答の割合

対応する濁音のある清音（無声子音）				
	出題字数	誤答あり	誤答なし	誤答の割合（%）
k	95	19	76	20.00
s	93	22	71	23.66
t	43	22	21	51.16
h	55	15	40	27.27
小計	286	78	208	27.27
対応する濁音のない清音（有声子音）				
n	4	1	3	25.00
m	14	0	14	0.00
y	10	0	10	0.00
r	13	1	12	7.69
w	1	0	1	0.00
小計	42	2	40	4.76
濁音（有声子音）				
g	27	21	6	77.78
z	20	15	5	75.00
d	13	8	5	61.54
b	20	11	9	55.00
計	80	55	25	68.75
総計	408	135	273	33.09

全体的に見ると、総出題字数 408 字のうち誤りがあったものは 135 字で、その誤答の割合は 33.09%であった。そのうち最も誤答の割合

が高かったのは濁音の漢字の誤りの 68.75% (55/80 字) だった。次に多かったのが濁音と対応関係のあるカサタハ行の清音 (無声子音) の誤りの 27.27% (78/286 字) で、最も少なかったのが濁音と対応関係のないナマヤラワ行の清音 (有声子音) の誤りの 4.78% (2/42 字) だった。出題字数の差への考慮も必要ではあるが、清濁音の混同の可能性の有無がこの差を生み出した主要因であると考えることができそうだ。

4.1.2 誤答の種類別割合

次に誤答を種類別に「濁音の清音化」(例:「楽譜」×「かくふ」)、「清音の濁音化」(例:「開催」×「がいさい」)、「濁音の半濁音化」(例:「賠償」×「ぱいしょう」)、「拗音の非拗音化」(例:「脅威」×「きうい」)、「非拗音の拗音化」(例:「規範」×「きょうはん」)とその他の誤答(例:「飼育」×「ちいく」)の6つに分類してみたところ、以下のような結果となった。

表2. 誤答の種類別割合 (延べ字数)

濁音の清音化	清音の濁音化	濁音の半濁音化	拗音の非拗音化	非拗音の拗音化	その他の誤り	計
137	93	2	19	13	11	275*
49.82%	33.82%	0.73%	6.91%	4.73%	4.00%	100%

*1字に2種類の以上誤答があるため、延べ誤答総数は273にならず

全体的に見ると、「濁音の清音化」の49.82%が最も割合が高く、次に多かった「清音の濁音化」33.82%と合わせると、誤答全体の83.64%を占めることがわかった。もちろん、これに関しても、子音別の誤答の割合と同様、出題数が異なるので、単純には言えないが、清濁音の混同が子音の誤りの主要なものであることはこの結果からも明らかとなった。

4.2 日本漢字音の清濁音と広東語の陰陽調の対応関係の分析

清濁音の混同が子音の主要な誤りであることの確認ができたところで、このような広東語母語話者による清濁の混同の誤りを減らすために広東語の声調(陰陽調)の知識がどれだけ正の転移として活用できるのかという点について検討する。

広東語話者による二字漢語の誤答の分析
一語頭の清濁音の混同に注目して一

基本的に中古音の清音は広東語では陰声調（改イェール式の声調番号でいうと1, 2, 3）に、中古音の濁音（全濁、次濁）は広東語では陽声調（改イェール式の声調番号でいうと4, 5, 6）に対応しているという関係が日本語の清音と広東語の陰声調、日本語の濁音と広東語の陽声調の関係においてもどれだけ対応しているのか、その一致率を調査、分析した。

4.2.1 広東語の陰声調と日本語の清音の対応関係

ここではまず日本漢字音でカサタハ行（k,s,t,h）の清音とすべきところをガザダバ行（g,z,d,b）の濁音で誤答していた56字を分析する。この56字のうち、広東語の陰声調（1,2,3）が日本語の清音（k,s,t,h）と一致しているものは38字で、一致率は67.86%だった。つまりここでの誤答のうち約7割が広東語の知識によって、類推可能だと言うことを意味する。表3の「日本語子音」と「広東語音」のローマ字表記を見ると、例えば日本語子音が「k」のもの1つを見ても、広東語では「h,gw,g,h,w,kw」と6つの異なる子音が現れており、この一例だけでも従来一般的に行われてきた頭子音のローマ字の綴を比較する方法では日本語の清濁音の区別が困難であったことがよく分かる。

表3. 広東語の陰声調と日本語の清音の対応関係

	漢字	日本語 字音	日本語 子音	広東語音	誤答		
○	開	かい	k	hoi1	がい		
○	怪	かい	k	gwaai3	がい		
○	解	かい	k	gaai2	がい		
○	肝	かん	k	gon1	がん*2		
○	貴	き	k	gwai3	ぎ*2		
○	郷	きょう	k	heung1	ぎゅう*2		
○	屈	くっ	k	wat1	ぐっ		
○	欠	けつ	k	him3	げっ*2		
○	兼	けん	k	gim1	げん		
○	故	こ	k	gu3/gu2	ご		
○	誇	こ	k	kwa1	ごっ		

○	災	さい	s	joi1	ざい		
○	栽	さい	s	joi1	ざん		
○	削	さく	s	seuk3	ざ		
○	錯	さく	s	cho3	ざく		
○	失	しっ	s	sat1	じっ		
○	修	しゅう	s	sau1	じゅう		
○	祝	しゆく	s	juk1	じゆく	じゆ	
○	主	しゆ	s	jyu2	じゆ		
○	衝	しょう	s	chung1	じゅう		
○	証	しょう	s	jing3	じょう		
○	所	しょ	s	so2	じよ*2		
○	態	たい	t	taai3	だい		
○	担	たん	t	daam1	だん		
○	炭	たん	t	taan3	だん		
○	適	てき	t	sik1	でき		
○	統	とう	t	tung2	どう*5		
○	討	とう	t	tou2	どう		
○	迫	はく	h	baak1/bik1	ばく*2		
○	秘	ひ	h	bei3	び		
○	標	ひょう	h	biu1	びょう*2		
○	風	ふう	h	fung1	ぶん		
○	富	ふ	h	fu3	ぶ		
○	噴	ふん	h	pan3	ぶん*2		
○	紛	ふん	h	fan1	ぶん*5	ほう*5	ぼん
○	変	へん	h	bin3	べん		
○	補	ほ	h	bou2	ぼ*2		
○	舗	ほ	h	pou3	ほ		
×	拒	きよ	k	keui5	ぎよ		
×	近	きん	k	gan6/kan5	ぎん		
×	刑	けい	k	ying4	げっ	げん	
×	懸	けん	k	yun4	げん*6		
×	儉	けん	k	gim6	げん*3		
×	就	しゅう	s	jau6	じゅう		

広東語話者による二字漢語の誤答の分析
 一語頭の清濁音の混同に注目して一

×	詳	しょう	s	cheung4/yeung4	じょう*3		
×	承	しょう	s	sing4/ching2	じょう	じょ	
×	象	しょう	s	jeung6	じょう		
×	大	たい	t	daai6/taai3	だい		
×	提	てい	t	tai4/si4	でい*2		
×	陶	とう	t	tou4/yiu4	どう		
×	特	とく	t	dak6	どく*2		
×	突	とつ	t	dat6*/duk1	ど		
×	頻	ひん	h	pan4	びん		
×	奮	ふん	h	fan3/fan5*	ぶん		
×	奉	ほう	h	fung6	ほう		
×	捕	ほ	h	bou6	ぼ		

○は広東語の陰声調と日本語の清音が一致、×は不一致

*広東語音の太字は主要な発音

4.2.2 広東語の陽声調と日本語の濁音の対応関係

次に日本漢字音でガザダバ行 (g,z,d,b) の濁音とすべきところをカサタハ行 (k,s,t,h) の清音で誤答していた 55 字を分析する。この 55 字のうち、広東語の陽声調 (4,5,6) が日本語の濁音 (g,z,d,b) と一致しているものは 44 字で、一致率は 80% だった。つまりここでの誤答のうち 8 割が広東語の知識によって、類推可能だと言うことを意味する。

表 4. 広東語の陽声調と日本語の濁音の対応関係

	漢字	日本語 字音	日本語 子音	広東語音	誤答		
○	楽	がく	g	lok6/ngok6	かく*3	かつ	
○	合	がっ	g	hap6	かつ*7		
○	頑	がん	g	waan4	かん*6		
○	議	ぎ	g	yi5	き*2		
○	偽	ぎ	g	ngai6	き*3		
○	疑	ぎ	g	yi4	き*4		
○	吟	ぎん	g	yam4/ngam4	きん		

○	群	ぐん	g	kwan4	くん	くっ	
○	月	げっ	g	yut6	けっ		
○	原	げん	g	yun4	けん*3		
○	厳	げん	g	yim4	こう	けん	
○	護	ご	g	wu6	こ*2		
○	語	ご	g	yu5	こ*3		
○	碁	ご	g	geil/kei4	こう		
○	財	ざい	z	choi4	さい*2		
○	座	ざ	z	jo6	さ		
○	自	じ	z	ji6	しが	し	
○	磁	じ	z	chi4	しぎ	し	
○	実	じっ	z	sat6	しっ*4		
○	従	じゅう	zy	chung4	しゅう*4		
○	上	じょう	zy	seung6/seung5	しょう*3		
○	讓	じょう	zy	yeung6	しょう*2		
○	条	じょう	zy	tiu4	しょう*2	しゅう	
○	徐	じょ	zy	cheui4	しょう*2		
○	是	ぜ	z	si6	せ		
○	全	ぜん	z	chyun4	せん		
○	前	ぜん	z	chin4	せん		
○	善	ぜん	z	sin6	せん*4		
○	大	だい	d	daai6	たい*3		
○	代	だい	d	doi6	たい*2		
○	駄	だ	d	to4	たい		
○	同	どう	d	tung4	とう		
○	動	どう	d	dung6	とう*6		
○	独	どく	d	duk6	とく*2		
○	賠	ばい	b	pui4	はい		
○	描	びょう	by	miu4	ひょう*2		
○	敏	びん	b	man5	ひん*3		
○	貧	びん	b	pan4	ひん		
○	侮	ぶ	b	mou5	ふ*3		
○	防	ぼう	b	fong4	ほう*5		

広東語話者による二字漢語の誤答の分析
 一語頭の清濁音の混同に注目して一

○	妨	ぼう	b	fong4	ほう		
○	膨	ぼうち	b	paang4	ほう*2		
○	冒	ぼう	b	mou6	ほう		
○	墓	ぼ	b	mou6	ほ*2		
×	街	がい	g	gaail	かい*2		
×	該	がい	g	goil	かい		
×	概	がい	g	koi3/goi3	かい*3		
×	戯	ぎ	g	hei3/fail/fu1	き		
×	犧	ぎ	g	heil	き*3		
×	軍	ぐん	g	gwan1	くん*4		
×	激	げき	g	gik1	けき		
×	充	じゅう	zy	chung1	しゅう*3		
×	打	だ	d	da2/dal/ding2	たい	た	
×	土	ど	d	tou2	と		
×	紡	ぼう	b	fong2	ほう*4		

○は広東語の陰声調と日本語の清音が一致、×は不一致

広東語の陰声調と日本語の清音、広東語の陽声調と日本語の濁音の対応関係の一致率をまとめると表5のようになる。今回の誤答の調査、分析結果からすると全体で73.87%の誤答が広東語の声調知識を正の転移に活用することで、減らせると言える。なお、参考までに再生テストにおいて正答だった漢字についても調査、分析してみたところ、日本漢字音でカサタハ行(k,s,t,h)の清音となる208字と広東語の陰声調が一致しているものは165字で、一致率は79.33%、日本漢字音でガザダバ行(g,z,d,b)の濁音となる25字と広東語の陽声調が一致しているものは20字で、一致率は80%だった。誤答のあった漢字と誤答のなかった漢字をすべて合わせると、総字数344字のうち、広東語の陰陽調と日本語の清濁音が一致しているものは267字で、全体的な一致率は77.62%となった。つまり、今回調査対象とした漢字に限れば、広東語の声調知識によって、約8割の日本漢字の清濁音の類推が可能だと言える。もちろん、常用漢字全体で同様の一致率となるかどうかは現段階では不明で、さらなる調査が必要だが、有効な手段であることは間違いなさそうだ。

表 5. 広東語の陰陽調と日本語の清濁音の一致率

	誤答を含む 漢字数	広東語 陰声調	広東語 陽声調	一致率 (%)
カサタハ行の誤り(k,s,t,h)	56	38	18	67.86
	誤答を含む 漢字数	広東語 陽声調	広東語 陰声調	一致率 (%)
ガザダバ行の誤り(g,z,d,b)	55	44	11	80.00
広東語の陰陽調と日本語の 清濁音の対応関係	誤答を含む 漢字総数	一致	不一致	
計	111	82	29	73.87

4.2.3 広東語の陰陽調と日本語の清濁音が不一致だった漢字の分析

それでは広東語の陰陽調と日本語の清濁音の対応関係が一致しなかった 29 字、26.13%の漢字にはどのような原因が考えられるのであろうか。今回出題された二字漢語で使用された字音以外の字音も漢和辞典を使って調べ、以下の表 6 にまとめてみた。

出題二字漢語	漢字	子音	広東語音	陰陽	詳細な日本語字音	清濁音
拒否拒絶	拒	ky	keui5	陽	キョ・ゴ	清・濁
近眼近視	近	k	gan6/kan5	陽	キン・ゴン・ コン	清・濁
刑罰	刑	k	ying4	陽	ケイ・ギョウ	清・濁
懸賞	懸	k	yun4	陽	ケン・ケ・ゲン	清・濁
儉約	儉	k	gim6	陽	ケン・ゲン	清・濁
就業	就	sy	jau6	陽	シュウ・ジュ	清・濁
詳細	詳	sy	cheung4/yeung4	陽	ショウ・ゾウ	清・濁
承諾	承	sy	sing4/ching2	陰陽	ショウ・ジョウ	清・濁
象徴	象	sy	jeung6	陽	ショウ・ゾウ	清・濁
大衆大概	大	t	daai6/taai3	陰陽	ダイ・タイ・ タ・ダ	清・濁

広東語話者による二字漢語の誤答の分析
 一語頭の清濁音の混同に注目して一

提供提携 提示堤防	提	t	tai4/si4	陽	テイ・ダイ	清・濁
陶器	陶	t	tou4/yiu4	陽	トウ・ドウ・ ヨウ	清・濁
特派	特	t	dak6	陽	トク・ドク	清・濁
突如	突	t	dat6/duk1	陰陽	トツ・ドチ	清・濁
頻繁	頻	h	pan4	陽	ヒン・ビン	清・濁
奮闘	奮	h	fan3/fan5	陰陽	フン	清
奉仕	奉	h	fung6	陽	ホウ・ブ	清・濁
捕獲捕鯨	捕	h	bou6	陽	ホ・ブ	清・濁
街頭	街	g	gaai1	陰	ガイ・カイ・ケ	清・濁
該当	該	g	goi1	陰	ガイ・カイ	清・濁
概念概要 概略概説	概	g	koi3/goi3	陰	ガイ・カイ	清・濁
戯曲	戯	g	hei3/fai1/ful	陰	ギ・ゲ・キ・ケ	清・濁
犠牲	犧	g	hei1	陰	ギ・キ	清・濁
軍艦	軍	g	gwan1	陰	グン・クン	清・濁
激励	激	g	gik1	陰	ゲキ・ケキ・ キャク	清・濁
充実	充	zy	chung1	陰	ジュウ・ シュウ・シュ	清・濁
打撃	打	d	da2/dai1/ding2	陰	ダ・チョウ・ テイ	清・濁
土俵	土	d	tou2	陰	ド・ト・ツ	清・濁
紡績	紡	b	fong2	陰	ボウ・ホウ	清・濁

その結果、広東語の陰陽調と日本語の清濁音の対応関係が一致しなかった 29 字のうち、28 字が清濁音をともに持つことが明らかとなった。つまり、対応関係が一致する字音も存在するものの、今回出題された字音ではなかったということである。日本語には呉音、漢音、唐（宋）音、更には慣用音と、様々な字音が存在する。対応関係は存在していても、どの語彙にどの字音が使われるかは個別に確認する必要がある。

一方、広東語の方でも 29 字のうち 11 字が複数の声調を持ち、そのうち 4 字は陰陽の声調をともに持つことが判明した。一般的には広東語は日本語と比べ、一字一音の原則があると言われているが、今回中古音や広東語の発音を調べるために参考とした「漢語多功能字庫」には複数の発音、声調をもつものも少なくなかったが、やはりこちらにも複数の発音があると言っても、特別な固有名詞にしか使わないものなど多いので、日本語の字音ほどではないにせよ、注意が必要であろう。

5. まとめ

本研究の結果、改めて日本語の字音の読みに関し、清濁音の混同が広東語母語話者の子音の主要な誤りであることを確認することができた。

またこのような広東語母語話者による清濁の混同の誤りを減らすために広東語の声調（陰陽調）の知識がどれだけ正の転移として活用できるのかという点について、広東語の声調と日本語の清濁音の一致率を調査、分析をしたところ、今回調査対象とした再生テストの清濁音を混同した誤答の字音の 7 割以上が広東語の陰陽調の区別によって類推することが可能であることも明らかとなった。再生テストで正答だったものを含めると、約 8 割もの字音の清濁音の類推が可能であると判明した。

もちろん広東語と日本語の漢字音の対応関係のすべてを演繹的に学習するのは例外も多いので、不向きであり、日本語の漢字音は語彙として学習するのが基本となるが、このような対応関係を知っていれば、漢字音の読みの誤りを減らす助けになるだろう。

今回の調査、分析結果を踏まえ、より実用的に日本語学習の場面で広東語の声調知識を活用するために、今後は対象を広げ、常用漢字や日本語の初級教材、旧日本語能力試験出題基準の語彙、漢字等を調査、分析をしていきたい。

また広東語の発音についても「香港小學學習字詞表」や「香港中學學習字詞表」等を参照し、学習者にとって基本的な発音に基づいた調査をすることで、より実用性を高め、広東語母語話者の日本語学習を支援できたらと思う。

広東語話者による二字漢語の誤答の分析
—語頭の清濁音の混同に注目して—

参考文献

- 大西晴彦（1985）「広東語と日本語における漢字音の対応関係について」
『紀要』9,17-69
- 黒沢晶子（2016）「漢字音の長音教材-中国語母語話者と非母語話者を対象
に-」, 『日本語教育連絡会議論文集』29号, 147-157
- 郡司拓也（2018）「広東語話者による二字漢語の誤答の分析—促音、濁音、半
濁音に注目して—」『日本学刊』21,131-143.
- 郡司拓也（2020）「広東語話者による二字漢語の誤答の分析—長音の読みに注
目して—」『日本学刊』23, pp.45-57
- 国際交流基金・日本国際教育協会(2002)『日本語能力試験出題基準【改訂版】』
凡人社
- 兒島慶治（1998）「香港広東語話者への漢字の読み教育について—香港中文大
学日本研究学科の自作教材の分析を通して—」『日本学刊』2,1-28.
- 薛華民（2013）『中国語を第一言語とする日本語学習者のための漢字読み方指
導法開発に向けた基礎研究—中国語(漢字)知識の利用をめぐって』九州大学博
士論文
- 濱田美和・高島智美（2009）「中国人学習者に対する漢字教育のための基礎
研究—漢字の読み・書きクイズにおける誤答の分析—」, 『富山大学留学生
センター紀要』, 8,1-12.
- 丸田孝志(1996)「日本語漢字音の清濁音・長短音・促音の指導について—北京
語・朝鮮語話者の母語をてがかりに」『教育学研究紀要』,42(2),528-533
- 李活雄（1992）『日語發音-香港人學習日語指南-』, 中文大學出版社
- 漢語多功能字庫（2014）
<https://humanum.arts.cuhk.edu.hk/Lexis/lexi-mf/>（2022年8月1日
閲覧）